

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®](試行)認証申請書

2022年10月28日

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 江井ヶ島漁業協同組合

住所 兵庫県明石市大久保町江井島 418-6

氏名 代表理事組合長 橋本 幹也 

法人番号 4140005005464

東洋建設株式会社大阪本店

<https://www.toyo-const.co.jp/>

住所 大阪府大阪市中央区高麗橋 4丁目

1番1号

氏名 常務執行役員本店長 河瀬 伸幸 

法人番号 9120001077496

特定非営利活動法人アマモ種子バンク

<http://www.amamobank.sakura.ne.jp/>

住所 兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目1番8号

氏名 理事長 出口 一郎 

法人番号 5140005016295

Jブルークレジット制度実施要領の規定に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	<input checked="" type="checkbox"/> 新規申請 <input type="checkbox"/> 登録番号()
プロジェクトの名称	明石市江井島周辺を中心とした藻場造成 「アマモは海のゆりかごだ!」プロジェクト
プロジェクト実施者・場所	【実施者】 同上 【場所】 兵庫県明石市大久保町江井島海岸 兵庫県明石市大久保町谷八木地先

プロジェクト区分 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 自然基盤 <input type="checkbox"/> 人工基盤 <input checked="" type="checkbox"/> 吸收源の新たな創出 <input type="checkbox"/> 吸收源の回復、維持、劣化抑制 <input type="checkbox"/> 水産養殖含む <input checked="" type="checkbox"/> 水産養殖は含まない
プロジェクト概要	<p>【プロジェクト概要】</p> <p>兵庫県明石市大久保町に位置する江井島海岸等について、気候変動緩和策として CO₂ 吸収源となる藻場造成及び水質浄化を目的とし、地元自治会等と連携した清掃活動、藻場保全等に約 20 年努めてきました。今回、アマモ場範囲が拡大中の谷八木地先における内海沿岸砂泥域での活動にて申請します。</p> <p>①江井島海岸アマモ場造成</p> <p>国土交通省姫路河川国道事務所が平成 9 年 3 月に覆砂し造成した江井島海岸は、地域の憩いの砂浜として利用されている。この江井島海岸にてアマモ場の再生を目的に、2011 年より江井ヶ島漁業協同組合、NPO 法人アマモ種子バンクが主となり、江井ヶ島漁業協同組合敷地内施設にてアマモの種を養生保存し、移植を行ってきた。申請対象期間のみならず、2011 年から毎年アマモの繁殖状況や生息生物のモニタリング等を実施してきた。SDGs 取組「子供達を中心とした海のゆりかご教室の実施」にて豊かな海の再生について共に未来を見据え考えている。</p> <p>②谷八木地先アマモ場造成</p> <p>当該砂浜は東播磨県民局加古川土木事務所管轄であり、江井島海岸同様地域の憩いの場となっている。2001 年 11 月より、東洋建設株式会社鳴尾研究所が主となり、江井ヶ島漁業協同組合、NPO 法人アマモ種子バンク、地元自治会等の地域社会と協力しながらアマモ場造成を行ってきた。プロジェクト開始当初は被度 1~2 までの自生アマモ場が存在したが、敷設区にはない状態であった。そこに播種シート 10m × 30m を 2 枚、5m × 5m を 1 枚敷設。3 年後の 2004 年には 129 本/m² と隣接する箇所と遜色のないアマモ場を形成することに成功。以後も、モニタリングによるアマモ場拡大を確認してきた。造成したアマモ場には、メバル等</p>

幼魚が住み着く。それにより、江井ヶ島漁協管轄区域の根魚等の漁獲高も向上し地域水産業の発展にも大きく貢献した。2011年6月以降は、江井ヶ島漁業協同組合所属の漁師を中心に、漁業をする傍らアマモの生育状況、漁獲高による生息生物の確認を行ってきた。

＜クレジットを取得する理由＞

①～②のプロジェクトを拡大・維持する取組を継続的に推進し、SDGs「質の高い教育及び豊かな海を作る」取組をまず地元を中心に根付かせる。また、東洋建設株式会社のCO₂吸収源の維持拡大を本プロジェクトによるブルーカーボンクレジットでまかない、より環境配慮型SDGs取組企業として飛躍し世界に発信していく。

＜クレジット取得後の気候変動緩和策の継続・拡大への具体的な計画や見通し＞

台風災害等で劣化した生態系の回復を行うため、江井島海岸へ2022年11-12月にアマモ移植、新規で西岡・魚住地区へのアマモ造成を行う。2023年9月まで定期的に生育状況をモニタリングし、同時にチヌやアイゴによる食害被害を防ぐための網による捕獲活動も実施。次年度のプロジェクト申請へと繋げる。

【申請対象期間に実施したプロジェクト概要】

活動期間：令和3年3月10日～令和4年3月9日

①藻場保全・維持活動(四季調査、漁船による藻場確認)

活動回数：5日

取組詳細	実施日	参加者(人)
春季調査(生物調査等)	2021.3.21	30
夏季調査(アマモ種採取)	2021.6.13	48
秋季調査(生物調査等)	2021.9.5	32
冬季調査(生物調査等)	2021.12.5	37
漁船による藻場確認	2022.3.3	3

	<p>②SDGs 推進組合として、小学校への質の高い出前授業を実施。また、アマモ場周辺の生物調査を行う。</p> <p>・地曳網による藻場生息魚類のモニタリング(計5日)</p>																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>取組詳細</th><th>実施日</th><th>参加者(人)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地引網生物調査(二見西小)</td><td>2021.10.6</td><td>約100</td></tr> <tr> <td>地引網生物調査(二見北小)</td><td>2021.10.7</td><td>約100</td></tr> <tr> <td>地引網生物調査(園田南小)</td><td>2021.10.12</td><td>約130</td></tr> <tr> <td>地引網生物調査(江井島小)</td><td>2021.10.15</td><td>約100</td></tr> <tr> <td>地引網生物調査(貴崎小)</td><td>2021.10.18</td><td>約100</td></tr> </tbody> </table>	取組詳細	実施日	参加者(人)	地引網生物調査(二見西小)	2021.10.6	約100	地引網生物調査(二見北小)	2021.10.7	約100	地引網生物調査(園田南小)	2021.10.12	約130	地引網生物調査(江井島小)	2021.10.15	約100	地引網生物調査(貴崎小)	2021.10.18	約100
取組詳細	実施日	参加者(人)																	
地引網生物調査(二見西小)	2021.10.6	約100																	
地引網生物調査(二見北小)	2021.10.7	約100																	
地引網生物調査(園田南小)	2021.10.12	約130																	
地引網生物調査(江井島小)	2021.10.15	約100																	
地引網生物調査(貴崎小)	2021.10.18	約100																	
	<p>・藻場保全のための清掃活動・再資源化(計63日)</p>																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>取組詳細</th><th>実施日</th><th>参加者(人)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海上清掃(浮遊ゴミ)</td><td>2021.6.9～全7日</td><td>約30</td></tr> <tr> <td>砂浜・港湾清掃</td><td>2021.3.10～全53日</td><td>約5～10</td></tr> <tr> <td>廃プラ再資源化立案</td><td>2021.3.10～全3日</td><td>20</td></tr> </tbody> </table>	取組詳細	実施日	参加者(人)	海上清掃(浮遊ゴミ)	2021.6.9～全7日	約30	砂浜・港湾清掃	2021.3.10～全53日	約5～10	廃プラ再資源化立案	2021.3.10～全3日	20						
取組詳細	実施日	参加者(人)																	
海上清掃(浮遊ゴミ)	2021.6.9～全7日	約30																	
砂浜・港湾清掃	2021.3.10～全53日	約5～10																	
廃プラ再資源化立案	2021.3.10～全3日	20																	
	<p><実施体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・江井ヶ島漁業協同組合 <ul style="list-style-type: none"> 1) アマモ移植補助及びモニタリング活動 2) 海藻場面積拡大活動 3) 清掃活動、普及啓蒙活動、SDGs 推進活動 ・東洋建設株式会社 <ul style="list-style-type: none"> 1) アマモ移植及びモニタリング活動 2) 藻場保全及び藻場拡大活動 3) アマモ場再生プロジェクト実施 ・NPOアマモ種子バンク <ul style="list-style-type: none"> 1) アマモ移植及びモニタリング活動 2) 藻場保全及び藻場拡大活動 3) 清掃活動、普及啓蒙活動 																		
プロジェクト実施期間	2001年11月～現在																		
クレジットの認証申請対象期間	令和3年3月10日～令和4年3月9日																		

方法論	① 対象生態系面積の算定方法*	<p>【対象とする生態系】</p> <p>■海草 <input checked="" type="checkbox"/> 海藻 <input checked="" type="checkbox"/> マングローブ <input checked="" type="checkbox"/> 干潟 ※別添1のとおり</p>
	② 吸収係数	<p>谷八木地先：アマモ</p> <p>桑江ら(2019)の表-4に記載されているアマモ場の吸収係数(4.9t-CO₂/ha/年)を用い算出した。</p> <p>桑江ら(2019.6)：浅海生態系における年間二酸化炭素吸収量の全国推計、土木学会論文集B2(海岸工学), 75: 10-20</p>
	③ 吸収量算定方法	<p>【算定した式】</p> <p>実勢活動面積 × 吸収係数</p> <p>【算定結果(吸収量)】</p> <p>アマモ</p> <p><被度5></p> $1.0\text{ha} \times 4.9 \text{ t-CO}_2/\text{ha/年} = 4.9 \text{ t-CO}_2$ <p><被度4></p> $0.69\text{ha} \times 4.9 \text{ t-CO}_2/\text{ha/年} = 3.38 \text{ t-CO}_2$ <p><被度3></p> $0.26\text{ha} \times 4.9 \text{ t-CO}_2/\text{ha/年} = 1.27 \text{ t-CO}_2$
	④ 確実性評価	<p>以下内容により、面積把握の確実性等を考慮した結果、確実性評価を面積85%、吸収係数80%とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーによる目視観測 ・鮮明な写真による判断による藻場把握 ・藻場を細かくプロットし、被度別に面積を算出 ・グーグルアース地点登録等により観測区域を把握 ・船上での位置情報により、藻場の位置を明確化
	⑤ 調査時に使用した船舶の情報	<p><使用船舶等></p> <p>☆谷八木地先アマモ場造成☆</p> <p>合計 船外機船 1隻(30kw×1隻) 稼働時間 0.5h 軽油使用 CO₂排出量(t-CO₂)=0.008</p> <p>・漁帰り便を利用した藻場監視活動(2022.3.3) 船外機船(0.43トン 30kw)×1隻 延運転時間約0.5時間 (0.5h×1隻/年=0.5時間) 航行距離約0.1km</p>

(第1号様式)

	<p>(約 0.1km × 漁帰り便のため 1 回=0.1 $\text{CO}_2 \text{ 排出量 (t-CO}_2\text{)} = 0.5 (\text{h}) \times 30 (\text{KW}) \times 0.209 (\text{L/kWh}) \times$ $1/1000 \times 2.58 (\text{t-CO}_2/\text{KL}) = 0.008$</p> <p>参考文献 1 港湾請負工事積算基準 令和 4 年度版(国土交通省)</p> <p>参考文献 2 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧 (環境省)</p>
ベースラインの設定方法・妥当性とその量	<p>谷八木地先アマモ場造成 別添 1 のとおり、2004 年 1 月の自生アマモにおける被度 1-2 合計実勢面積は、0.01(ha) となった。また、吸収係数 は、文献値(4.9t-CO₂/ha/年)を用い吸収量を算出した。 $0.01\text{ha} \times 4.9 \text{ t-CO}_2/\text{ha/年} = 0.04 \text{ t-CO}_2$ アマモ : 0.04t-CO₂</p>
クレジット認証対象の吸収量	<p>アマモ $1.95 (\text{ha}) \times \text{確実性評価 : 面積 } 85\% \times 4.9 \text{ t-CO}_2/\text{ha/年}$ $\times \text{ 確実性評価 : 吸収係数 } 80\% - 0.04 (\text{t-CO}_2) -$ $0.008 (\text{t-CO}_2) = 6.4$ 6.4 t-CO_2</p>